

植物と人々の博物館メールマガジン

第 126 号 2025 年 9 月 7 日発行



~~~~~  
キツネノカミソリはハケの林床にたくさん咲いていました。

ミンミンゼミはまだ鳴いていますが、ツクツホウシも鳴き始めました。いまだに高温夏日ですが、日は短くなり、いくぶんは秋めいてきました。時は止まることがないからこそ、河辺で流れる水面を見つめ、一時の流れを忘れることが要るのでしょうか。

植物と人々の博物館は先達たちから引き継いだ社会的共通文化財である植物標本、民具、文献資料や書籍を整理して森とむらの図書室を充実し、連携しているタイ・日本自然クラブの展示も再開しています。ご利用くださり、整理もご一緒に手伝っていただければありがたいです。できることなら、これらの資料は公共の場所を確保して、広く公共財として公開し、ご活用願いたいです。

## 1. 植物と人々の博物館

○開館・作業日：さく葉標本を選別し、民具、書籍の整理を行っています。今月は9月22か26日の予定です。公共の知的財産として活用していただけるように、ご協力いただけると嬉しいです。

ご協力いただける方があれば曜日や日時は調整できます。また、資料など閲覧したい方はご連絡ください。

### 主な作業：

- ①書籍 8000 冊・農林業、雑穀、民族植物学、環境、人類学、教育などの資料・書籍の整理、インドの関連書籍も多い。
- ②日本、インド、タイなどの民具の整理
- ③展示の企画：タイの民具の展示、自然文化誌研究会（学大探検部）50 年記念記録
- ④インド亜大陸、中央アジア学術調査隊収集の植物腊葉標本整理、台紙に貼る作業など、
- ⑤その他

### ○報告

- 1) 伊能さんが一時帰国されるので、8月31日に予定していましたが、編集子の都合で、中止しました。
- 2) 50周年記念企画の1つとして ZOOM 座談会をしました。その後、動画の視聴希望がありますので、公開します。

URL: <https://youtu.be/XijxEvDMBHc>

## ○予定

- 1) 雑穀など展示準備
- 2) 書籍、標本の整理。
- 3) 電子書籍：

自選集日英文要約版（第V巻“Essentials of Ethnobotany on Millets ~Their Origin and Dispersal around Indian Subcontinent”）では、穀物に関する新たな栽培起原と伝播仮説および未来への提案をします。同時に、自選集 III『日本雑穀のむら』の補足として、40年前の北海道調査における開拓農家やアイヌ民族の人々などとの対談テープの文章化を進めています。自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』や句集に順次新作を追加しています。

民族植物学ノオト第19号は2025年末を原稿締め切りとします。どなたでも、ぜひご寄稿ください。第20号は北海道での調査や二風谷冒険学校など、第21号はタイでの活動を集める予定（検討中）です。

第18号は下記です。 [http://www.ppmusee.org/\\_userdata/oto\\_No18.pdf](http://www.ppmusee.org/_userdata/oto_No18.pdf)

4) 公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係HP：生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>も国会図書館インターネット資料収集保存事業（ndl.go.jp）で毎年1回7月20日頃に収録されています（すでに5回登録済）。<https://warp.da.ndl.go.jp/waid/31424>すべての記事は無料で公開しています。国会図書館の文献録には博士論文や科学研究費報告書などまでが集成されており、ここに保存されている記事は記録として残りますので、とてもありがたいです。無料で皆さんに読んでいただけます。

5) 森とむらの図書室への寄贈など 現在所蔵する書籍（8000冊）や文献を整理して、ご利用していただけるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実しています。国内外の調査時におけるフィールド・ノオト、スライド35mmなども、こちらに置きます。リスト作りや番号貼りなど、ご協力いただけるとうれしいです。インド関係、民族植物学、図鑑、世界の料理書、雑穀などの文献、森林政策（財・森とむらの会の全資料）などに特色があります。

民族植物学関連の資料を先学からお預かりしてきた植物と人々の博物館を受け継いで、継承してほしいです。ヒトがこの人新世に暮らしていくのに、いずれ無くてはならない知識・知能を支える大切な生業の資料であることが世間にもわかります。木俣文庫は秋から年内には大方配架します。古典から新刊まで、良書が多くあります。

<https://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html>

## 6) 雑穀栽培

簡単な栽培や加工、調理法などは下記にあります。不明なことがありましたら、メールください。

栽培法 [雑穀～とりあえずの栽培法 \(milletimplic.net\)](https://www.milletimplic.net/)

[farmsklec8p.pdf \(milletimplic.net\)](#)

加工法 [雑穀類の加工方法 \(milletimplic.net\)](#)

詳細な調査記録は『日本雑穀のむら』『雑穀の民族植物学～インド亜大陸の農山村から』を検索してお読みください。ダイジェスト版は『穀物の起原と伝播』です。

上岩でも小菅でも、高齢の雑穀栽培者がいます。自立した誇り高い人生の姿に敬意を持ちます。

## 7) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている1円玉からする任意募金をお願いしています。これまでにゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただきました。ありがとうございます。将来に向けて、植物と人々の博物館へのご寄附あるいは整理作業のご協力を、よろしく願います。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。標本、民具、書籍などを社会的共通文化財として公共の施設で保存・公開するために、費目指定でご寄附をいただくとありがたいです。今のところ、上野原市西原のびりゅう館に森とむらの会文庫を一括貸し出しています。他に数名の方に、まとめて関係資料を貸し出しています。

これまでに、多くの方にご寄附を頂き、書架を購入できて、感謝しています。

郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

## 8) 推薦図書；内田樹 2025、沈む祖国を救うには、マガジンハウス新書 27、東京。

世の中はゆっくり変わります。自然知能Ninを発育することが不易の暮らしに必要なことがいずれ理解されるでしょう。移行するためには「環境学習過程」が必要になります。近い考えが述べられていて、心強いです。

## 2. 自然文化誌研究会（学大探検部：東京学芸大学自然文化誌研究会冒険探検部）

### ○報告

運営委員会；9月3日、

1) 事業中間報告

2) 中間会計報告

3) 50周年記念誌編集

4) 検討事項：小金井市環境フォーラムへの協力、環境座談会で、贅田隼人さんが「小菅/冒険学校と小金井/農学校」について話題提供することになりました。

5) 10月4日50周年記念交流会

### ○予定

1) 自然文化誌研究会（東京学芸大学冒険探検部）は2025年に創立50周年を迎えました。今までの活動履歴を示す50周年記念誌をまとめています。今後の更なる発展

を期待します。

詳細は下記にあります。

<http://www.npo-inch.ppmusee.org>

## 2) INCH と私～今までとこれから

50 年間に関わった人々と思いを語り合う会（10 月 4 日～5 日）。環境学習セミナー、公開講座、冒険学校や農学校、関係市民も皆さん、いろいろな環境保全、環境学習活動で、何万人もが場と時を共有した東京学芸大学彩色園で、1 泊 2 日を過ごします。学大環境教育研究センターの了承も得られています。楽しみにお集まりください。

日時：2025 年 10 月 4 日（土）～5 日（日）、1 泊 2 日、日帰り自由参加

場所：東京学芸大学彩色園など。環境教育研究センターの後援承認を得ています。

内容：写真展、談話会、50 年記念誌の発行などを検討中。

<http://www.npo-inch.ppmusee.org>

## 3) 検討中予定：

- ① 「環境学習過程 ELF」と日本の教育を考える座談会 11 月、ZOOM で実施予定。
- ② 植物と人々の博物館の再開内覧会。2026 年 3 月予定。

## 3. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NP04 団体と 3 個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

<https://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

生業としての学びを勧めたいです。加えて、各団体による環境＋観光＋教育産業が実現できることを期待します。

民族植物学講義資料をカリキュラムにして体系的に公開します。植物の種子、保存方法、栽培、加工、調理、民俗、生物多様性、文化多様性の保全、生業を学ぶ環境学習原論、人新世に暮らす中での希望を探す、などを参考教材（無料）として用意します。実技は各団体の講座を受けてください。

## 小金井環境市民会議

毎日、散歩に行っている場所ですので、次のサイトを作り、日々の彩をお伝えします。小金井環境市民会議のサイトにリンクしてもらいます。

<https://www.millettimplic.net/weedlife/musashinopark.html>

## 小金井環境フォーラム

- 1) 自然文化誌研究会も協力団体として、活動紹介展示、11月14日～16日、A1ポスター1枚。冒険学校、植物と人々の博物館、ちえのわ農学校、タイ環境学習、茶摘みの会など、関連活動の最近の写真2～3枚などを送ってください。活動紹介に使いたいです。
- 2) 企画会議 9月4日10:00～。小金井市役所
- 3) Green Connection Tokyo 佐藤留美さんを学大農園に案内予定、9月20日。
- 4) 第4回はけの自然と暮らしのフォーラム、野川公園自然観察センターに参加予定、9月29日。
- 5) 環境座談会に企画参加、11月16日15:00～17:00座談会、17:15～19:15カフェ。

## ○協力団体の参加協力・後援名義依頼 小金井環境市民会議から

- 1) 依頼状

<https://www.milletimplic.net/university/inch50aniv/envtalkofferv4.pdf>

- 2) 新潟国際情報大学異文化塾 豊穰なる主食の世界

<https://www.nuis.ac.jp/2025kouki-bunnkazyuku/>

11月1日、中東・北アフリカ地域の多様な主食 井堂有子（新潟国際情報大学教授）

11月8日、インドの雑穀と豆類が織りなすカラフルな世界 木俣美樹男（東京学芸大学名誉教授） 案

<http://www.milletimplic.net/university/inch50aniv/25indiafoodcul.pdf>

11月22日、食卓の「こころ」～東南アジアにおけるお米のお話 ジュリアス・マルティネス（新潟国際情報大学准教授）

12月6日、ライムギとスパイスの世界～北欧・バルト、東欧、黒海沿岸に広がる豊かなパン食文化 リューデ・アンナ（新潟国際情報大学准教授）

- 4) 小金井市長との意見交換会：都市計画道路に関して。9月6日、宮地楽器ホール

市長は都道建設計画に反対する旨の公約で、当選しました。ところが、道路を造るように政策を変節しました。なぜかという問いに、「能登半島地震の災害状況を見て、道路の必要性を考え直した」とお応えになりました。方針を変えたのはお詫びするとのことでした。

自然災害は人力の及ばない現象ですが、この道路造成は行政の強制による人為災害です。平穏に美しく住みなし、暮らしている数百軒の人家を立ち退かし、地域社会を分断させるのは、地域行政の首長がすることではなく、まさに人為災害です。これは避けることができます。富士山がよく見える野川上流域は先土器時代から人が住み着き、神社、仏閣、宗教団体の教会や研修所が多くあり、今でも聖なる場所です。また、多くの都市公園が東京都の環境保全計画により再生されてきました。木俣は現職の頃に、環境省はじめいくつかの省庁、都庁や小金井市の環境関連委員も務め、緑地保全に関して意見を述べてきました。学芸大学に勤務して以来、50年余、小金井に住み暮らしてきました。本籍もここに移し、家族のふるさとにしました。地元居住の植

物学者、教育学者として社会的責務、専門的知識から反対する意見を述べました。この件は小金井環境市民会議より、小金井市環境条例に基づき、意見書を提出しています。木俣は同行して、直接、市長にお会いして意見を述べました。環境保全、環境学習の街として、世界に知られている小金井に誇りを持ってほしいです。

~~~~~

植物と人々の博物館 (山梨県小菅村) :

館長 : 木下善晴、顧問研究員 ; 安孫子昭二

研究員 : 木俣美樹男 (東京、専任研究員、担当運営委員)、西村俊 (石川、担当理事)、井村礼恵 (東京、担当運営委員)、川上香 (長野)、渡辺隆一 (長野)、Sofia M. Penabaz-Wiley (メキシコ)、伊能まゆ (ベトナム)、大澤由実 (神奈川)、Weber (アメリカ) ほか

公式 HP : 自然文化誌研究会/植物と人々の博物館 <http://www.npo-inch.ppmusee.org/>

事務担当幹事 メールマガジン発行 : 木俣美樹男 kibi20kijin@yahoo.co.jp

民族植物学関係 HP: 生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>

エコミュージアム日本村 / ミューゼス研究会 (山梨県小菅村) : 代表 亀井雄次 (山梨小菅村)

自然文化誌研究会 : 代表 中込卓男 (東京)、副代表 中込貴芳 (東京)、小川泰彦 (埼玉)

事務局長 : 黒澤友彦 (山梨県小菅村)

伝統知顧問 : 守屋秋子 (小菅村)、岡部良雄 (丹波山村)

~~~~~

## 編集子の独り言 : イシャイラズ

ヨボ爺になって、いくつもの病院に通い、医師にお世話になりました。しかし、思うに、患者を診ないで、PC画面ばかり見て、検査の全体ではなく、一部の関連データだけで、診断をする方が増えましたね。ネット・エッセイなどを読んでも、そう書いている患者たちが多いです。自覚症状について言うと、不機嫌になり診療拒否されるようになりました。医師も第七感が退行進化しています。休養するか、精神科で見てもらった方がよいですね。

## 写真 : 猫 2 匹、ジンジャーリリー、台風一過の富士山



